

サンデードライバー

小西倫加

銀河の中心を見に南半球へ行く

わたしは僻地へ向かうサンデードライバー

アクセルを踏み込むと枠組みが前進するのは裏腹に

中身は数ミリ置いて行かれてしまった

いくら瞬きを繰り返しても

オンボロ車はスーパーカーにはならないし

アスファルトは草原にはならない

痺れを切らして降りてみるとなんと

脳みそが空に引っ張られて

私の体から離脱していつてしまった

近日の暑さでそれは茹で上がっていたし

からっぽの頭で別に必要ないかもしれないと思ったことを

わたしは情けないと思った

中に戻ると冷房をかけすぎていることに気づいた

目を閉じ深呼吸をして

後戻りできない車のアクセルを再び踏んだ

車にはナビがついていないが

好きな音楽が鳴っている、そんな諦念を

わたしは情けないと思った